

寄贈図書リスト

力学系入門 原著第2版, M. W. Hirsh・S. Smale, 他
原著, 桐木 紳・谷川清隆, 他訳, 菊判, 6,300円
+税, 440頁, 共立出版

The Astrophysics of Emission-Line Stars, 小暮智一・
Kam-Ching Leung, B5判, US \$ 189, 542頁, Springer

元素はいかにつくられたか, 野本憲一 編, 四六判,

定価 1,700円+税, 148頁, 岩波書店
リーヴィット 宇宙を測る方法, ジョージ・ジョン
ソン著, 榎原 凜 訳, 渡部 伸 監修, 四六判,
2,400円+税, 208頁, WAVE出版
彗星夏の学校 2007 (兵庫・姫路) 集録誌, A4判, 彗星
夏の学校 2007 出版

書評をご執筆の方には, 上記の図書を差し上げます。
ご希望の方は toukou@geppou.asj.or.jp まで。

月報だより

月報だよりの原稿は毎月20日締切, 翌月に発行の「天文月報」に掲載致
します。校正をお願いしておりますので, 締切日よりなるべく早めにお
申し込み下さい。

e-mail で jimu@geppou.asj.or.jp 宛。

なお, 原稿も必ず Fax で 0422-31-5487 までお送り下さい。

人事公募

標準書式: なるべく, 以下の項目に従ってご投稿下さい。結果は必ずお知らせ下さい。

1. 募集人員 (ポスト・人数など), 2. (1) 所属部門・
所属講座, (2) 勤務地, 3. 専門分野, 4. 職務内容・担
当科目, 5. (1) 着任時期, (2) 任期, 6. 応募資格, 7.
提出書類, 8. 応募締切・受付期間, 9. (1) 提出先,
(2) 問合せ先, 10. 応募上の注意, 11. その他 (待遇な
ど)

筑波大学計算科学研究センター教員公募

1. 准教授 1名
2. (1) 素粒子宇宙研究部門
(2) 茨城県つくば市天王台 1-1-1
3. 宇宙物理学 (理論)
4. 宇宙物理学の理論的研究, 特に, 計算宇宙物理学
的手法による研究の推進。他部門との連携による共
同研究。大学 (理工学群物理学類) および大学院 (数
理物質科学研究科物理学専攻) における教育。
5. (1) 決定後できるだけ早い時期
(2) 任期なし
6. 博士の学位を有する者
7. (1) 履歴書, (2) 業績リスト (論文は査読付きとそ
の他を区別), (3) 主な論文別刷 (5編以内, 各1
部), (4) これまでの研究の概要 (2,000字程度), (5)
研究計画と今後の抱負 (2,000字程度), (6) 本人に
ついで意見を求めうる方2名の氏名および連絡先

8. 平成20年1月11日 (金) 必着
9. (1) 〒305-8577 つくば市天王台 1-1-1
筑波大学計算科学研究センター
センター長 佐藤三久
(2) 〒305-8577 つくば市天王台 1-1-1
筑波大学計算科学研究センター
素粒子宇宙研究部門 主任 梅村雅之
Tel: 029-853-6494
e-mail: umemura@ccs.tsukuba.ac.jp
10. 封筒に「宇宙物理学(理論)人事応募書類在中」と
朱書きし, 簡易書留か宅配便でお送り下さい。
11. 計算科学研究センター計算宇宙物理学分野では,
輻射流体力学を柱とした研究を推進しており, これ
に基づく宇宙物理学の新たな展開を計画していま
す。(研究室ホームページ <http://www.ccs.tsukuba.ac.jp/Astro/>)

人事公募結果

1. 掲載号
2. 結果 (前所属)
3. 着任時期

埼玉大学大学院理工学研究科物質科学部門 教員 (准教授)

1. 2007年5月 (第100巻5号)
2. 寺田幸功 (理化学研究所研究員)
3. 2007年10月1日

鹿兒島大学理学部物理科学科教授

1. 2007年6月(第100巻6号)
2. 西尾正則(鹿兒島大学理学部)
3. 2007年10月16日

鹿兒島大学理学部物理科学科准教授

1. 2007年9月(第100巻9号)
2. 中西裕之(Australia Telescope National Facility)
3. 2007年11月1日

会務報告

日本天文学会 2007 年秋季年会報告

2007 年秋季年会は 9 月 26 日(水)から 28 日(金)の 3 日間、岐阜大学(岐阜市)にて口頭会場 9、ポスター会場 1 を使って開催された。講演件数は口頭講演が 461 件、ポスター講演が 238 件、合計で 699 講演であった。これに加えポストデッドライン講演が 2 件あった。年会参加者は 912 名であり、過去最高となった。また、ジュニアセッションのみの参加者が 19 名あった。今

回は、日本天文学会と日本物理学会、地球電磁気・地球惑星圏学会の 3 学会が共催した企画セッションも開催された。共催学会の会員で講演した人は 53 名であった。今回開催された特別セッションと企画セッションは次のとおりである。

「日本学術振興会特別セッション：科学研究費補助金制度・特別研究員制度について」

世話人：家 正則(国立天文台)

「プラズマ宇宙物理」(日本天文学会、日本物理学会、地球電磁気・地球惑星圏学会共催セッション)

世話人：松元亮治(千葉大学)、柴田一成(京都大学)、工藤哲洋(国立天文台)、中本泰史(東京工業大学)

「高精度多波長観測と理論による銀河系の包括的研究」

世話人：郷田直輝(国立天文台)、鶴 剛(京都大学)、和田桂一(国立天文台)、辻本拓司(国立天文台)、本間希樹(国立天文台)

「第一世代天体の形成」

世話人：吉田直紀(名古屋大学)、青木和光(国立天文台)、大向一行(国立天文台)、須佐 元(甲南大学)、野本憲一(東京大学)

座長は次の 57 名の方々に務めていただいた。会場・時間帯別にお名前を示す(敬称略)。

	9月26日(水)		9月27日(木)		9月28日(金)	
	10:00-12:00	14:00-16:30	9:30-11:30	13:30-15:30	9:30-11:30	13:30-15:30
A	鶴 剛 (京都大)	茂山俊和 (東京大)	梅村雅之 (筑波大)	梅田秀之 (東京大)	須佐 元 (甲南大)	青木和光 (国立天文台)
B	山崎 了 (広島大)	平原聖文 (東京大)	西村博明 (大阪大) 小野 靖 (東京大)	高部英明 (大阪大)	小嵐康史 (広島大)	小出眞路 (熊本大)
C	高野秀路 (国立天文台)	立松健一 (国立天文台)	坂尾太郎 (ISAS/JAXA)	永田伸一 (京都大)	北井礼三郎 (京都大)	原 弘久 (国立天文台)
D	比田井昌英 (東海大)	今井 裕 (鹿兒島大)	杉谷光司 (名古屋市大)	梅本智文 (国立天文台)	本田充彦 (神奈川大)	伊藤洋一 (神戸大)
E	有本信雄 (国立天文台)	嶋作一大 (東京大)	田代 信 (埼玉大)	山岡 均 (九州大)	海老沢 研 (ISAS/JAXA)	嶺重 慎 (京都大)
F	白崎裕治 (国立天文台)	須藤 靖 (東京大)	吉川耕治 (筑波大)	祖父江義明 (鹿兒島大)	本間希樹 (国立天文台)	渡部潤一 (国立天文台)
G	土居明広 (ISAS/JAXA)	谷口義明 (愛媛大)	龜谷 收 (国立天文台)	井口 聖 (国立天文台)	吉田道利 (国立天文台)	水本好彦 (国立天文台)
H	牧島一夫 (東京大)	小賀坂康志 (名古屋大)	塩谷圭吾 (ISAS/JAXA)	田村元秀 (国立天文台)	金田英宏 (ISAS/JAXA)	林田 清 (大阪大)
I	横井喜充 (東京大)	常田佐久 (国立天文台)	篠原 育 (ISAS/JAXA)	草野完也 (JAMSTEC) 石原 修 (横浜国大)	工藤哲洋 (国立天文台) 大村善治 (京都大)	大須賀 健 (理研)

〈記者会見〉

秋季年会の前日、9月25日(火)14:00から、岐阜大学全学共通教育棟にて行われた。土佐 誠理事長より挨拶の後、以下の3件のトピックスについて各講演者から解説が行われた。報道機関4社の出席があった。それ以外にも、事前に問い合わせが数件あった。これらの内容は、10月18日までに確認できたもので合計7紙に記事として掲載された。

●研究発表

- (1) すざくが解き明かす宇宙の元素の起源—我々の体を作る元素はいつどこから来たのか—

記者会見出席者:

山崎典子 (ISAS/JAXA), 藤田 裕 (大阪大学), 佐藤浩介 (東京理科大学)

関連する講演番号: T05a, T06a, T07b

- (2) 宇宙を満たす暗黒エネルギーのさらなる証拠—一過去最大の重力レンズ探索による検証—

記者会見出席者:

大栗真宗 (スタンフォード大学), 稲田直久 (理化学研究所)

関連する講演番号: U13a, U12a

- (3) おうし座の若い連星から噴き出すジェットを発見—近赤外線とらえた生まれたての星の姿—

記者会見出席者:

日置智紀 (神戸大学), 伊藤洋一 (神戸大学)

関連する講演番号: P36b

〈天文教育フォーラム〉

天文教育普及研究会との共催で、会期初日I会場にて学振特別セッションに引き続き開催された。全体の進行が遅れたため予定より20分繰り下げて18:00~19:00の開催となった。参加者は約80名であった。テーマを「法人化・指定管理者制度の前と後」とし、大学や研究機関の法人化と社会教育施設の指定管理者制度導入の流れを一連の動きと捉え、意識や知識を共有することを目的とした。司会を黒田武彦 (西はりま天文台) にお願ひし、富田晃彦 (和歌山大学), 岡村定矩 (東京大学), 安藤享平 (郡山市ふれあい科学館) の3名に基調講演として、それぞれの立場からこれまでの状況や背景についてご報告いただいた。

後半は、講演者3名に対する質問や意見の形を取りながら、会場全体でテーマに関連した議論を行った。さまざまな立場からさまざまな意見が出されたが、柔軟な思想でこの危機を乗り切るための工夫が必要であり、それにはむしろ我々の側での協調体制が重要ではないかとする意見や、一部に資本投下を集中することで研究教育のレベルが上がるとする「市場原理的な考

え方」は誤っているとする意見が出された。この問題は引き続き議論を続ける必要があり、今後も何度か取り上げるべきテーマであろう。

(半田利弘・松本直記)

〈通常総会〉

「通常総会報告」(689頁)を参照。

〈研究奨励賞受賞記念講演〉

年会2日目の総会后、同じI会場で17:00から1時間にわたり、2006年度研究奨励賞受賞者3名の方々に記念講演をしていただいた。一人あたり20分という短い時間ではあったが、それぞれのご研究について手際よく紹介していただくとともに、さらに若い研究者や大学院生にとってためになるような教訓なども交え、楽しい話をしていただいた。受賞者と講演題目は次のとおりである(敬称略)。青木和光(国立天文台)「宇宙の元素合成に関する観測的研究」、秋山正幸(国立天文台)「活動銀河核の構造と銀河進化との関係の研究」、戸谷友則(京都大学)「ガンマ線バーストによる初期宇宙の探究」。出席者数は総会時を上回り、会場(定員500人)の座席は半分以上が埋まっていた。

〈懇親会〉

岐阜大学の生協第二食堂で、9月27日(木)18:30から2時間にわたって行われた。事前のメールによる申し込み260名に加え、年会受付での申し込みを合計し343名の参加があった。岐阜大学森副学長の歓迎の挨拶につづき、土佐理事長からの挨拶、プラズマセッションを共催した日本物理学会の高部教授、地球電磁気・地球惑星圏学会の星野教授の挨拶のあと、尾崎洋二先生に乾杯の音頭を取っていただいた。飛騨牛、朴葉みそ焼き、鮎の甘露煮やイワナの開きなど岐阜の名物料理を、地元の酒蔵から寄付をいただいた吟醸酒をはじめ各種酒類で味わい、閉会の挨拶のあとにぎやかに懇談が続いていた。

(開催地理事 高羽 浩)

〈保育室〉

保育室は岐阜大学キャンパス内の学生会館3階、第九集会室を使用した。5家族、子供5人の利用があった。保育者の派遣は株式会社ポピンズコーポレーション名古屋支社に依頼し、年会実行委員会側は保育室担当が対応した。準備にあたり岐阜大学の高羽 浩氏ならびに同学生スタッフの方々にご協力いただいたことを感謝する。

(泉浦秀行, 岡 朋治)

〈企画セッション報告〉

『プラズマ宇宙物理』(共催セッション)については、別途、世話人代表の松元さんからの報告が天文月報に掲載される予定である。

『第一世代天体の形成』

「第一世代天体の形成」のタイトルで企画セッションを開催し、理論、観測両分野での最新の研究について紹介していただきました。三つの基調講演を含む29件の講演があり、セッション全体では6時間に及ぶものとなりました。プログラムのにはかなりタイトな運営となりましたが、講演者の皆様の成果に加えて、それぞれの分野での最近の進展と問題点についてわかりやすくまとめていただき、非常に有意義なセッションとなりました。また、多いときには会場に立ち見がでるほど、およそ150名以上の方々の参加を得て、この分野の重要性を改めて確認しました。ご参加いただいた皆様に深くお礼申し上げます。

第一世代天体の形成と進化については、ここ数年、様々な観点から研究が進み、国際共同観測計画が進められる一方で、理論・シミュレーション部門においても極めて質の高い研究が行われています。これらの研究において日本の研究グループが中心的な役割を果たしていることも、今回のセッションがこれほど盛況であった理由であると思います。今後、この分野の研究の発展にさらに弾みがつくことを、世話人一同期待しております。これからも折を見て、第2回目、第3回目の企画セッションを開催できるようにしたいと考えておりますので、今後とも宜しく願いいたします。

(世話人代表 吉田直紀)

『高精度多波長観測と理論による銀河系の包括的研究』

学会初日から二日目午前の総時間数6時間半にわたり、多波長観測(電波、赤外線、可視光、X線、ガンマ線)および理論的アプローチによる銀河系の構造、形成、進化、活動性に関わる様々な講演がなされた。

セッションは初日午前は銀河系中心とバルジ、午後は銀河系円盤、2日目午前はハローを含めた銀河系全体および近傍銀河を研究対象テーマとした講演から構成された。総講演数は39件に達し、6件の基調講演、25件の口頭発表、6件のポスター&口頭発表、そして2件のポスター発表から構成された。セッション開催中はほぼ会場が埋まる盛況で、終始活発な議論が展開され、銀河系研究に対する関心度の高さが反映された。本セッションのような銀河系研究者が一堂に会する機会の重要性が認識されることとなった。最後に議論が行われ、銀河系研究に対して今後も研究会や学会

等を通じてお互いの情報交換を続けること、さらには共同研究やその体制強化を推進していくことになり、世話人を中心に今後の活動案を練っていくこととなった。(世話人 辻本拓司)

〈特別セッション報告〉

「日本学術振興会特別セッション：科学研究費補助金制度・特別研究員制度について」

初日の午後、16時50分からI会場にて、日本学術振興会の主催で同学術システム研究センターが近年取り組んできた科学研究費補助金制度と日本学術振興会特別研究員制度の改善に関する説明会を開催した。研究に密接に関連するテーマであり、関心が高く若手を含め約350名の参加があった。

セッションは宮嶋和男同センター審議役の挨拶に引き続き、家正則同センター数物系科学主任研究員より、同センターの設置経緯、活動内容、科研費の申請・採択状況、申請書式の改善、電子申請導入、各種の若手支援充実策の新設、年度繰越、審査法の検証と改善策など、研究者の視点からの改善状況について説明があり、天文学界における科研費の実績などについての分析結果が報告された。質疑応答では、プログラムオフィサー制度の充実、分野への資源配分が申請数に依存することなどについて意見交換があった。学会でのこの種の説明会開催は、若手が科研費制度や研究員制度への理解を深め研究活動に資する機会として有益との感想が多かった。(世話人 家正則)

〈ジュニアセッション〉

秋の年会なので、ジュニアセッションとしてはポスター発表のみを募集した。地元の学校からの2件を含めて合計3件のポスター発表があった。今回は3件とも発表者の生徒が参加するということだったので、年会の初日にはジュニアセッションのコアタイムを2回設定して、生徒に説明をしてもらった。発表の内容は、小惑星の掩蔽観測、食変光星の観測、星団をつくる星の年齢についての研究だった。しっかりした研究内容であり、発表者によるとさらに研究を進めたものを次の春季年会時のジュニアセッションで発表する予定であるということである。なお、ジュニアセッションの様子が地元の新聞に記事として掲載された。地元の学校との対応等をしていただいたり、いろいろご配慮いただいた年会開催地理事の高羽浩氏に感謝したい。(世話人 吉川真)

〈公開講演会〉

一般向けの公開講演会は、「技術開発が拓く宇宙の

扉」というタイトルで、9月29日(土)14:00より岐阜県民文化ホール未来会館/長良川ホールで開催した。まず土佐 誠理事長(東北大学教授)の天文学会100周年の紹介も含めた挨拶の後、家 正則氏(国立天文台教授)の講演「すばる望遠鏡から超巨大望遠鏡へ」が行われた。すばる望遠鏡の概要から最近のレーザーガイド補償光学に関して、また最新の観測成果である最遠銀河や流星についてのお話があり、さらに現在計画中の超巨大望遠鏡が紹介された。休憩後には、地元岐阜出身の中川貴雄氏(宇宙航空研究開発機構教授)の講演「赤外線天文衛星『あかり』が挑む暗黒の宇宙」が行われた。内容は赤外線の解説から始まり、衛星「あかり」の説明、赤外線観測の意義とその研究成果などが話され、また次の衛星であるSPICA計画の紹介もあった。それぞれの講演の後には活発な質問が出て、天体や観測に関する話題から、天文学やサイエンスの本質に及び、話が大変盛り上がり、時間の関係で遮らざるをえないほどであった。入場者数は230名程度であった。高校関係者に講演の案内を行ったこともあり、中川氏の母校である岐阜高校などから100名を超える高校生が集まった。講演の後、高校生に講師を囲んでの懇談会を呼びかけたところ50名程度の高校生が集まり、熱心な討論が行われた。

(教育委員会 熊谷紫麻見)

(年会実行委員長: 中本泰史)

【理事会議事録】

日時: 2007年9月26日(水)12:03~13:05

場所: 岐阜大学全学共通教育棟1階第1会議室

出席者: 土佐, 柴橋, 國枝, 花岡, 高田, 北本, 田村,

嶋作, 福田, 高羽, 堂谷, 比田井, 中本, 和田

表決状提出者: 渡部

他に東條事務長が出席した。

報告

議事に先立ち署名人として花岡, 高田両庶務理事を選出した。

1. 前回議事録確認

高田庶務理事より前回議事録として資料1が示され、了承された。

2. 開催中の年会・その後の年会について

開催中の2007年秋季年会について高羽開催地理事より口頭で説明があった。年会の運営については特に大きな問題はなく進行中であり、プロジェクトでPCとの相性問題でいくつかトラブルとなっ

た程度との報告がなされた。懇親会は事前申し込みで260人ほどだが、バスの増便なども行う予定で問題なしであるとの報告であった。前日行われた記者会見には新聞社4社が参加、他に1放送局から資料提供の要請があったこと、セッションの初日にはさらにもう1放送局による取材があったことも報告された。ジュニアセッションや公開講演会についての取材が多かったことも報告された。翌日の新聞などにさらに5件の記事を確認した。

次回の東京での年会について嶋作開催地理事より口頭で報告があり、本年会でそれぞれの担当者が各会場等を見下し、準備に必要な事項をチェック中であるとの報告があった。

2010年以降の年会開催地について、西日本に偏りすぎであるとの指摘があった件について、広島での春季年会の開催の打診や、その他の候補地について至急話を進める予定であることが高田庶務理事より口頭で報告があった。

3. ロゴの商標登録と記念切手について

学会ロゴについて、北本会計理事より口頭で説明が行われた。本年会の総会において表彰を行う予定であること、優秀賞の方1人しか表彰式には来ないこと、最優秀賞の英語版の商標登録申請中であり、半年ぐらいで判断が出る見込みであることが報告された。

北本会計理事より、天文学会100周年の記念切手は郵政公社においてデザインが検討されている段階であるとの報告があった。まだデザイン決定には至っておらず、天文学会からも最終デザインへ向けて提案を行っていきたい旨報告された。また、切手の完成・発売に関する記者発表についての調整はまだ進んでいないこともあわせて報告された。3月21日に発売予定で、通常、発売1から2カ月前に記者発表をやっているとのこと。切手の販売については公共天文台等でも行う方向で調整中である旨あわせて報告された。

4. 百周年記念式典等の準備状況について

百周年記念式典について柴橋副理事長より口頭で説明があった。東北大での100周年記念式典の例を参考にするなど、招待・案内状などの策定に向けて現在準備中であること、11月には招待者等を確定させる予定であることが報告された。招待者についてはまだ確定事項ではないが10-20人程度を考えており、具体的には文科省関係者、学振理事長などが考えられていること、他学会についての招待等はどうか検討中であることが報告された。案内状を天文学会員のどのレベルにまで出すかなど、今後方針

を至急詰める予定であることもあわせて報告された。

関連して学会 100 周年および世界天文年に関する記念展示について國枝副理事長より資料 6 に基づいて説明があった。2009 年に展示を行う予定であるが、国立科学博物館以外に名古屋と仙台の科学館を回ることは確定したことが報告された。また、展示に使えるであろう貴重書物について金沢工大と明星大学を訪問して確認等を行ったこともあわせて報告された。金沢工大としては貸し出したいという意向を持っているようで、今後貸し出しに際しての保険料等を考慮しつつ貸し出してもらう書物を選定していくことが報告された。

5. いわゆる「小委員会」設置の手順について

高田庶務理事より、小委員会の設置の手続きについて定款・内規集に基づいて説明が行われた。定款には評議員会での議決によって小委員会設置に必要な内規を決めることが記されている。一方、委員会等に関する共通内規では、理事会が小委員会設置を決定するとの記述があって、両者の整合性がよくない。今後必要に応じて修正をすることも考慮することが報告された。

6. その他

(1) 開催地理事（理事交替時）就任前の肩書きについて

中本年回理事より資料 2 に基づいて、開催地理事の就任前の肩書きについて説明が行われた。理事会の任期 1 年目の年會を担当する開催地担当者は、担当する年會が開催されるまで 1 年を切っても理事ではない状態がしばらく続くが、年會開催の準備は通常 1 年以上前から進められ、この間、開催地担当者と天文学会や年會の間の関係を示すものがないため準備作業に支障をきたす場合がある。この問題を解消するため、理事に就任する前の開催地担当者に「日本天文学会〇〇年會準備幹事」の肩書きを与え、日本天文学会を代表する準備担当者であることを内外に明示できるようにすることが目的であることが報告された。今後の運用方針は以下のとおり。

1. 年會を開催する開催地担当者は、必要な場合、「日本天文学会〇〇年會準備幹事」に就くことができる。ただし、〇〇には開催地の名称を入れる。
2. 年會準備幹事の肩書きは開催地担当者からの申し出に基づいて庶務理事が承認ののち付与し、理事会に報告する。年會準備幹事の交

代等は、庶務理事の承認のもとに行う。

3. 年會準備幹事は、年會開催前年の 6 月頃から理事会にオブザーバとして参加してもらい、準備の進捗状況を説明してもらう。
4. 年會準備幹事がそのまま開催地理事になる必要はない。

議 題

1. 新入会員の承認

高田庶務理事より資料 3 に基づいて新規入会者についての報告が行われ承認された。また、退会者等についてもあわせて報告された。

2. 早川幸男基金内規の改訂

栗木早川幸男基金選考委員会委員長の代理として北本会計理事より資料 4 に基づいて説明が行われた。半額援助について、その根拠を明記すること、援助対象費目の拡大を目的とした改訂をすること等が提案された。議論の後、一部の記述の修正を施した上で評議員会に諮ることを承認することとした。

3. 衛星設計コンテスト委員会に関する内規の制定

北本会計理事より資料 5 に基づいて説明が行われた。天文学会が共同主催者として参加している衛星設計コンテストに対して、今後も長く参加することを考えると学会側の受け皿を明確な形で持つておくことが必要であろうとの認識にたつて衛星設計コンテスト小委員会を設置することの提案が行われた。議論の後、評議員会に議案として諮ることが承認された。

次回開催は 1 月 12 日(土)に決定された。場所については未定。

2007 年 10 月 22 日

議 長 土佐 誠 ㊟
署名人 花岡庸一郎 ㊟
署名人 高田 唯史 ㊟

【評議員会議事録】

日 時：2007 年 9 月 27 日(木)12:30~13:40

場 所：岐阜大学全学共通教育棟 1 階第 1 会議室

出席者：家、梅村、佐藤、谷口、山本、井上、岡村、海部、郷田、柴田、須藤、中川、宮川、渡部
以上 14 名

評決状提出者：安東、池内、大橋、観山、永田 以上 5 名

他に理事会から土佐理事長、國枝、柴橋両副理事長、花岡、高田、北本、田村、中本理事、および東條事務長が出席した。

議事に先立ち、議長に柴田氏、署名人に佐藤、渡部両氏を選出した。

報告

1. 前回議事録の確認

高田庶務理事より前回議事録として資料1が示され、了承された。

2. 開催中の年会・その後の年会について

開催中の秋季年会について中本年会理事より口頭で報告が行われた。記者会見には新聞社4社が参加、他に1放送局から資料提供の要請があったこと、セッションの初日にはさらにもう1放送局による取材があったことも報告された。記事は新聞3紙ネットにおいて2件の報道があったこともあわせて報告された。また、2日目午前中までの登録者数は815名で、プロジェクターとPCの接続に関して初日に若干の問題があったものの、年会は順調に進んでいることが報告された。今後の年会について高田庶務理事より口頭で報告が行われた。2007年3月の東京での春季年会について、現在開催地理事の嶋作氏を中心として会場での運営方法の下見が分担されて行われており、準備を進めている点が報告された。また、2010年春と秋の年会開催地について現在複数の候補地と交渉中であり、本年会を含めて交渉を進めるつもりであることもあわせて報告された。

3. ロゴの商標登録と記念切手について

学会ロゴについて、北本会計理事より口頭で説明が行われた。本年会の総会において表彰を行う予定であること、優秀賞の方1人しか表彰式には来ないこと、最優秀賞の英語版の商標登録申請中であり、半年ぐらいで判断が出る見込みであることが報告された。

また、天文学会100周年記念切手の進捗について北本会計理事より口頭で報告が行われた。デザインについては現在郵政公社で検討が進んでいる点、切手の完成・発売に関する記者発表に関しての調整はまだ進んでいないこと、公開天文台などでの販売を検討していることが報告された。3月21日に発売予定で、通常、発売1から2カ月前に記者発表をやっているとのこと。なお、切手のデザインについては、最新の天文学の状況を反映したものであるべき、という強い意見が複数委員から出され、至急、理事長から天文学会として郵政公社に対して状況説明を行い、デザインに反映させるように働きかけることとなった。

4. 百周年記念式典等の準備状況について

柴橋副理事長より配布資料に基づいて、百周年記

念式典等の準備状況について報告が行われた。現在の想定では、式典参加者については事前登録制にして行う予定であること、招待者等については現在検討中であり、11月までには確定する予定であることが報告された。また記念講演会の対象聴衆について委員から質問が出され、一般もある程度（天文学会員に限るわけではないという意味）ターゲットにしている講演ではあるが、学会員が主な対象である旨説明が行われた。関連して一般向けには公開講演会を別途行う予定であることもあわせて報告された。

また、百周年記念および世界天文年に関連した記念展示の準備状況について國枝副理事長より資料4に基づいて報告が行われた。金沢工業大学と明星大学を訪問し、所蔵されている天文学の歴史を語るうえで大変貴重な書物について見学を行い、貸し出しについての調整を始めている旨、報告がなされた。金沢工大は積極的に貸し出したい意向を持っており、今後、保険料や湿度・温度管理の問題をクリアしながら更に調整を進めていく予定であるとのこと。また、巡回展については、名古屋および仙台の科学館が参加することが確定したこともあわせて報告された。

5. いわゆる「小委員会」設置の手順について

高田庶務理事より、小委員会の設置の手続きについて定款・内規集に基づいて説明が行われた。定款で評議員会での議決によって小委員会内規を決めることが記されているので、それに従うと、委員会設置に関する内規の一部に定款と整合性がとれないとも思える記述が一部あることがあわせて報告され、今後必要に応じて修正をすることも考慮していることが報告された。

6. その他

(1) 百周年記念出版の現状について

岡村氏より百周年記念出版の現状について口頭で報告が行われた。現在既に6巻が刊行され1巻は印刷中であること、2巻が最終作業中で、残り8巻のうち1巻だけが12月までに終わるかが不明であることが報告された。編集のノウハウの蓄積に問題があり、作業の効率が上がらなかった点が反省点であるとの指摘がなされた。

(2) 長期計画に関するシンポジウムについて

海部氏より、12月に予定されている学会議による長期計画に関するシンポジウムについて口頭で紹介がなされた。佐藤氏を実行委員長としたシンポジウムで、今後の天文学における長期計画についての議論のきっかけにすることを

目的としたシンポジウムであること、また、関連して、来春の年会において特別セッション等の形で議論をさらに深めることを想定していることもあわせて報告された。

(3) 学振の学会での説明会について

家氏より、前日に行われた学術振興会による学会における科研費に関する説明会について口頭で報告があり、約 350 名の参加者があり、会は成功裏に終わったことが報告された。

議 題

1. 早川幸男基金内規の改訂

粟木早川幸男基金選考委員会委員長の代理として北本会計理事より資料 2 に基づいて説明が行われた。半額援助について、その根拠を明記すること、援助対象費目の拡大を目的とした改訂をすること等が提案された。その後、修正案にはまだ表現が一部不明確な点があることが指摘された。特に、援助の対象と他の資金源からの援助の可否についての記述についてはもっと丁寧に書くべきであるとの指摘が複数委員より出された。また、今後の運用案については費目が多くなるので、査定が煩雑になりすぎるのではとの意見も出された。今後の運用案を見据える必要はあるが、改訂の方向性については問題なしということです承し、内規の文言について修正を待つこととなった。

2. 衛星設計コンテスト委員会に関する内規の制定

北本会計理事より資料 3 に基づいて衛星設計コンテスト委員会に関する内規の制定について説明が行われた。今後も継続的に衛星設計コンテストに共同主催者として参加していくうえで、学会側の受け皿が必要であるとの理由で本小委員会を設置することを議決してもらいたい旨提案が行われた。衛星設計コンテストと本小委員会との関係が内規案ではよくわからないので、第 1 条および第 4 条の記述について修正するべきである旨意見が出された。その他にも、本小委員会の性格が他の委員会とは趣が違うのではとの意見も出され、議論の結果、設置の可否は修正等を施した内規案を受けて、次回以降に議論して制定を決定することで合意した。

今回は 1 月 26 日 13 時よりの開催。会場は未定であるが東京駅近辺を第 1 候補として探すこととなった。

2007 年 10 月 26 日

議 長 柴田一成 ㊟
署名人 佐藤勝彦 ㊟
署名人 渡部潤一 ㊟

【2007 年度秋季総会議事録】

日 時：2007 年 9 月 27 日(木)16:00~16:55

場 所：岐阜大学講堂 (I 会場)

議事に先立ち、公募していた学会ロゴに関して、最優秀賞 1 件、優秀賞 2 件について表彰式が行われた。次に出席者の確認がなされた。事前投票総数(会場参加者との重複は除く)は 331 名、会場参加は 140 名である。出席者のうちで事前投票をしたものは、事前投票の方を無効とした。有効出席者総数は 471 名で、定足数(正会員総数 1,696 名の 5 分の 1=340 名)を満たしていることを確認した。

次に署名人として富阪幸治氏、富田晃彦氏が選出された。

議事の経過および結果

1. 高田理事が資料に基づき 2008 年度事業計画案の説明を行った(第 1 号議案)後、質疑応答が行われた。
2. 田村理事が資料に基づき 2008 年度収支予算案の説明を行った(第 2 号議案)後、質疑応答が行われた。
3. 高田理事が資料に基づき第 17 期評議員候補者について説明を行った(第 3 号議案)後、質疑応答が行われた。
4. 第 1 号議案、第 2 号議案、第 3 号議案は各々賛成多数で承認された。

報告事項等

1. 海部宣男氏より学術会議に関連した最近の活動について報告が行われた。4 月より活動が開始され、若手人材育成問題への取り組み、数物系教育問題への取り組みが最近の大きなものであること、特に教育問題に関しては天文学会の対応が遅れている旨、危惧が示された。
2. 佐藤勝彦氏より、学術会議が主催する天文学・宇宙物理学長期計画シンポジウムについて報告が行われた。12 月 28 日に学術会議においてシンポジウムを開催予定であることが報告された。
3. 天文教育普及研究会の松村雅文氏より科学館や公共天文台への指定管理者制度導入に関する活動について報告が行われた。本年会の天文教育フォーラムにおいても議論が行われ、来年 3 月を目処に共同声明をまとめる方向で検討を進めているとのこと。

2007 年 10 月 22 日

議 長 土佐 誠 ㊟
署名人 富阪幸治 ㊟
署名人 富田晃彦 ㊟

研究会・集会案内

シンポジウム 天文学・宇宙物理学の展望
—長期計画の策定へ向けて—

日本学術会議天文学・宇宙物理学分科会では、20年を見通した天文学・宇宙物理学の動向の議論と長期計画の策定のための活動を続けています。今回これからの天文学・宇宙物理学がどのように展開していくのか、気鋭の研究者を講演者に招いてビジョンを提示してもらおうとともに、公開討論を通じて今後の長期計画に向けたコミュニティ及びその周辺の共通理解を深めることを目的にシンポジウムを開催します。

日 時：平成 19 年 12 月 28 日（金）

会 場：日本学術会議（千代田線乃木坂駅）

主 催：学術会議天文学・宇宙物理学分科会

後 援：日本天文学会他

講 師：小松英一郎、山田 亨、上田佳宏、田村元秀、
中村正人、関井 隆、戸谷友則、安東正樹、
森山茂栄、海部宣男（基調講演）、佐藤勝彦
（まとめ）

参 加：申し込みは不要ですが、定員は 300 名です。
詳細は、<http://aserv.a.phys.nagoya-u.ac.jp/~naoshi/gakujyutsu/> をご覧ください。

編集委員会より

100 巻記念号の付録

100 巻記念号も今月で終わりです。「200 巻記念号」と巻頭グラビア「天文月報の 100 年」の二つの特別付録、楽しんでいただけたでしょうか。表紙の写真からは時代の変化が読み取れます。戦後の 2 年間は休刊されていました。スキャンした画像の色から想像できるように、戦時中はかなり紙の質が悪かったようです。表紙も付けることはできなかったようです。

「200 巻記念号」は、準備期間が短い割に力作がそろいました。記事間で多少歴史に矛盾点があるかもしれませんが、そこはご愛嬌。表紙のデザインは、額谷宙彦さんです。「透明な表紙」というのがコンセプトです。各記事の著者が誰かは、皆さんのご想像にお任せします。

100 年後の天文月報は、果たしてどうなっているでしょうか。

和田桂一（天文月報編集長・国立天文台
理論研究部）

天文月報オンラインの ID とパスワード

ID: asj 2005

パスワード：雑誌コード **vol98** の計 10 文字を入力してください。「雑誌コード」とは印刷版の月報の裏表紙の右下に書かれている「雑誌○○○○○—▲」の○○○○○の部分です。

和田桂一（編集長）、浅井 歩、今西昌俊、衣笠健三、齋藤正雄、寺田幸功、戸谷友則、三好 真、矢野太平、吉田直紀
平成 19 年 11 月 20 日 発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
印刷発行 印刷所 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 3-8-8 株式会社 国際文献印刷社
定価 700 円（本体 667 円） 発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
Tel: 0422-31-1359（事務所）/0422-31-5488（月報） Fax: 0422-31-5487 振替口座 00160-1-13595
日本天文学会のウェブサイト <http://www.asj.or.jp/> 月報編集 e-mail: toukou@geppou.asj.or.jp

©社団法人日本天文学会 2007 年（本誌掲載記事は無断転載を禁じます）